

行政訴訟之寫

禁電子式複写

036536-000-7

CZ-2311-018

行政訴訟之寫

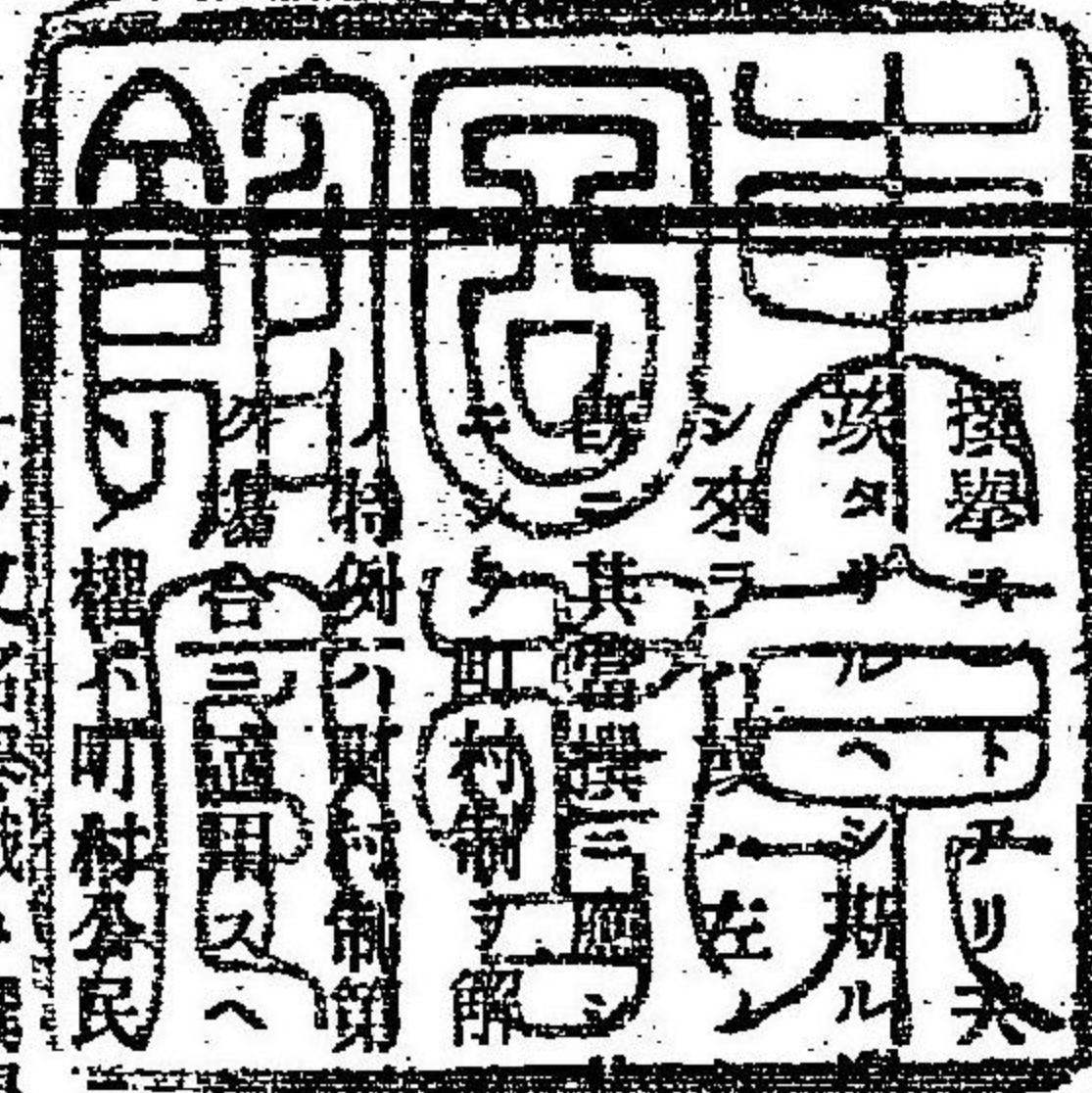
押尾 保太郎 / 著

M24

BBR-0298



08
2311
018



訴願

一 現任村長ハ公民ニアラス又撰舉權ナキコトヲ發見セリ之レ即チ町村制第五十三條ノ規定ニ背キ
 一 現任村長ハ明治二十三年一月十七日ニ開キタル村會ニ於テ撰舉セルモノナリト雖モ現任村長ハ公民タルノ資格ヲ有セス從テ名譽職ニ撰舉セラル、ノ權利ナシ（町村制第五十三條）
 長及功役ハ町村會ニ於テ其町村公民中年齡滿三十歳以上ニシテ撰舉權ヲ有スルモノヨリ之ヲ撰舉スルコトアリ夫然リ然ラハ即チ現任村長ハ此規定ニ背キタル無効ノ撰舉ナルコトハ論ヲ俟タズルニ於テハ前ノ撰舉ヲ取消シ更ニ撰舉ヲ行フハ當然ノ事ナリトス斯久論
 其撰舉ニ應ジルモノ、言ナリトス抑モ當撰ニ應シ認可ヲ經タル上初メテ公民權ヲ得ル
 町村制第七條ノ適用スヘキモノニシテ名譽職村長ニ適用スヘキモノニアラス凡名譽職ニ撰舉セラル
 權ハ町村公民ニアリ町村制第七條ノ資格ヲ具有スルモノニアリ然ルニ現任村長ハ公民權
 ナク又名譽職ニ撰舉セラル、ノ權ナクシテ現ニ名譽職村長ニ就カシメタルハ甚タ其當ヲ失シ
 タルモノニシテ則チ町村制第五十三條ニ背キタルモノナリトス
 以上ノ理由ナルヲ以テ現任村長ノ撰舉ヲ取消シ更ニ撰舉アラントヲ茲ニ及請求候也

明治二十三年四月一日

下總國印旛郡彌富村
押尾 忠治

大野美三郎
 南波佐間久治郎
 中村 興吉
 中村 亥之助
 林 菊治郎
 廣瀬惣兵衛
 林 利兵衛
 木村 善吉
 杉山勝治郎
 大野太平治
 南波佐間源之丞
 林 和吉
 林 房吉
 南波佐間和助
 三本辰之助
 岩井伊之助
 三本久四郎
 岩井七兵衛
 林 市松

印旛郡彌富村々會議長檜垣榮三郎殿

粟生重治郎
 山本 徳藏
 島田太郎吉
 錦織利助
 加納辨治郎
 島田民治郎
 鈴木三右衛門
 三須清重郎
 山本五兵衛

明治二十三年四月二日彌富村々會ノ決議ニヨリ報告スル事左ノ如シ
 本願ハ要スルニ現任村長ハ公民ニアラス村長ノ資格ヲ有セサルモノトシ其撰擧ヲ取消シ更ニ撰擧セラレシコトヲ請求スルニ過キヌ現任村長ノ公民タルハ明治二十二年九月廿七日日本村常設學務委員撰擧會ニ際シ前ノ議長即チ(村長)村會決議ヲ得テ特免シ以テ本村學務委員トナシタルハ確然タル公民ニシテ彌富人民カ一般ニ了知シ居ルハ論ヲ俟タサルモノナリ
 然レハ即チ本年一月十七日撰擧會ニ於テ現任村長ヲ撰擧シタルハ嚮キニ特免シアルヲ以テ町村制第五拾三條ニヨリ撰擧ス
 右ノ理由ナルヲ以テ村會ノ撰擧スルハ當然ナリトス

明治二十三年四月十一日

印旛郡彌富村々會議長代理

押尾保太郎

訴願

一印旛郡彌富村々長檢垣榮三郎ハ公民ニアラサルコトヲ發見セリ然ルヲ名譽職村長ニ撰舉セシ
ハ甚タ不當ナルヲ以テ該撰舉ヲ取消シ更ニ撰舉スルハ素ヨリ相當ノコト、信シ其旨及訴願候
處彌富村會ハ現任村長檢垣榮三郎ハ公民權ナキヲ認知シナガラ(現任村長ノ公民タルハ明治
二十二年九月廿七日日本村常設委員撰舉會ニ際シ前議長即チ(村長)村會ノ決議ヲ得テ特免シ以
テ本村學務委員トナシタルハ確然タル公民ニシテ彌富人民カ一般了知シ居ルハ論ヲ俟タサル
モノナリ)トノ理由ヲ附シ該撰舉ハ當然ナリト議決セリ此議決タル實ニ其當ヲ失シタルモノ
ニシテ實ニ之ニ服スル能ハス因テ此議決ヲ取消シ更ニ相當ノ裁決ヲ受ケ度茲ニ訴願仕候其理
由ハ左ノ如シ

一現任村長ニ公民權ナカリシコトハ村會モ亦認ムル所ナリトス只其以前常設學務委員ニ撰舉ス
ルニ際シ公民タル資格ナキモ村會ニ於テ之ヲ特免セシヲ以テ其ノ以後ハ公民權ヲ得タルモノ
ナレハ村長ニ撰舉スルモ差閤ナシト言フ者ノ如シ果シテ然リトスルトキハ其常設學務委員ニ
撰舉シ且公民權ナキモノヲ特免セシハ彌富村會カ町村制ニ背キタル越權ノ處置ナルコト明カ
ナル以上ハ無論名譽職村長ニ撰舉セラルヘキモノニアラサルコト又明カナリトス故ニ先ツ其
最初常設學務委員ニ撰舉シ公民權ナキモノヲ特免セシハ町村制ニ背キタル不當ノ所置ナルコ
トヲ左ニ陳述仕候

特51
850

一委員ハ町村制第六十五條第二項ニ町村公民中撰舉權ヲ有スル者ヨリ撰舉シ云々トアルヲ以テ
公民權ナキモノハ撰舉セラル、ヲ得ス之ヲ撰舉スルモ更ニ其効ナキ者トス彌富村會ハ之ヲ特
免セリト云フモ町村制第七條但書及ヒ同制第五十六條第二項ノ外特免セラル、法文アルナシ
然ルヲ漫リニ之ヲ特免セシハ彌富村會カ背法ノ所爲ナリトス
以上ノ理由ナルヲ以テ檢垣榮三郎カ常設學務委員及ヒ村長ニ撰舉セラル、モ更ニ其効ナキモノ
ト信ス因テ此撰舉權ヲ取消更ニ撰舉スル様御裁決相成度謹テ訴願仕候也

明治廿三年四月

- 押尾 忠 治
- 大野 美 三 郎
- 南波 佐 間 久 四 郎
- 中 村 與 吉
- 中 村 亥 之 助
- 林 菊 治 郎
- 廣 瀬 惣 兵 衛
- 林 利 兵 衛
- 木 村 善 吉
- 杉 山 勝 治 郎
- 大 野 太 平 次
- 南波 佐 間 源 之 丞

千葉縣印旛下埴生南相馬郡長武藤宗彬殿

- 林 和 吉
- 林 房 吉
- 南波佐間 和 助
- 三 本 辰 之 助
- 岩 井 伊 之 助
- 三 本 久 四 郎
- 岩 井 七 兵 衛
- 林 市 松
- 粟 生 重 治 郎
- 山 本 德 藏
- 島 田 太 郎 吉
- 錦 織 理 助
- 加 納 辨 次 郎
- 島 田 民 治 郎
- 鈴 木 三 右 衛 門
- 三 須 清 重 郎
- 山 本 五 兵 衛

裁 決 書

印旛郡彌富村押尾忠治外卅一名

右押尾忠治外卅一名ヨリ訴願ニ係ル彌富村長撰舉不當ノ件ニ對シ該村會カ爲シタル裁決ニ服セ
 ス更ニ郡參事會ノ裁決ヲ乞フ其要領左ノ如シ

村長檢垣榮三郎ハ明治二十二年六月家督相續ヲ爲シタルモ未ダ二ヶ年ヲ經サルヲ以テ本村ニ於
 テ公民タルノ資格ヲ具有セス然ルニ本村會ガ本年一月ニ於テ右檢垣榮三郎ヲ名譽職村長ニ撰任
 シタルハ町村制第五十三條ノ規定ニ違フヲ以テ該撰舉ヲ取消シ更ニ撰舉セシムコトヲ請求セシニ
 本村會ハ現任村長檢垣榮三郎ハ明治二十二年九月中町村制第七條第一項但書ヲ適用シ本村會ノ
 議決ヲ以テ二ヶ年ノ制限ヲ特免シ而シテ常設學務委員ニ撰舉シタルモノナレハ爾來公民權ヲ有
 スルハ論ヲ俟タヌ由テ村會ノ撰舉ハ違法ニアラザルヲ以テ取消スヘキ理由ナシト裁決スト雖ト
 モ常設學務委員撰舉ニ際シ町村制第七條第一項但書ヲ適用セシハ町村制ニ違背セル越權ノ處置
 ナルヲ以テ學務委員ハ勿論村長ニ撰舉セシヲ無効トシ更ニ撰舉セラレタシト云フニアリ彌富村
 助役押尾保太郎陳述ノ要旨ハ本村會ニ於テ檢垣榮三郎ヲ村長ニ撰舉シタルハ明治二十二年九月
 中常設學務委員撰舉ニ際シ町村制第七條第一項但書ニヨリ本村會ノ決議ヲ以テ二ヶ年ノ制限ヲ
 特免シ而シテ學務委員ニ撰舉シタルモノナレハ爾來公民權ヲ有スルハ論ヲ俟タズ故ニ村長ニ撰
 舉セシハ決シテ不當ニアラスト云フニアリ

依テ之ヲ審查スルニ公民權ヲ有セサル檢垣榮三郎ヲ明治二十二年九月中町村制第七條第一項但
 書ニ依リ村會ノ決議ヲ以テ之ヲ特免シ而シテ常設學務委員ニ撰舉シ爾來就職セサルヲ以テ即チ
 公民權ヲ有スト云フト云ヘル檢垣榮三郎ハ明治二十二年六月ニ於テ家督ヲ相續セシモ全年十一

月迄負擔ヲ分任セシコトナキハ本村助役押尾保太郎ノ上申書ニ據リ明瞭ナリ抑町村制第七條第一項ノ但書ハ本條ニ定ムル要件ヲ有セルモノニシテ只二ヶ年ヲ經サルモノニ對シ其制限ヲ特免スルヲ得ルノ意ニシテ未ダ曾テ本村ノ負擔ヲ分任セサルモノ等ニ對シテ之ヲ適用スベキモノニアラス加之特免シタルト云フモ議事録及決議書等ノ備ナク又村内ニ公告シタルコトモナク渾テ特免ヲ証スヘキ證據ナキヲ以テ檢垣榮三郎ハ撰舉ノ當時ニアリテハ公民タルノ資格ヲ備ヘサルモノナレハ名譽職ニ撰舉セラル、ノ權利ヲ有セサルモノトス

右之理田ナルヲ以テ町村制第百三十條ニ由リ裁決スルコト左ノ如シ

公民タルノ資格ヲ有セサル檢垣榮三郎ヲ名譽職村長ニ撰舉シタルハ當ヲ得サルモノニ付キ其撰舉ハ無効トス

明治廿三年七月二十二日

郡參事會

千葉縣印旛下埴生南相馬郡長武藤宗彬

訴 願

千葉縣下總國印旛郡富村々會議長代理

助役 押尾 保 太 郎

本村押尾忠治外三十一名ヨリ村長撰舉ニ關スル訴願ニ對シ本年七月廿二日郡參事會千葉縣印旛下埴生南相馬郡長武藤宗彬カ與ヘタル裁決ハ太々不當ニシテ服スル能ハス茲ニ縣參事會ノ裁決ヲ請求スル理由左ニ開陳仕候

本件ノ要點ハ明治二十三年一月則チ村長撰舉ノ當時檢垣榮三郎ハ公民權ヲ有セシヤ否ヲ決スルニアリ而シテ之ヲ決スルニハ同人ハ明治二十二年九月二十七日村會ノ決議ニヨリ特免ヲ得タリヤ否ヤヲ吟味スルヲ最モ必要ナリト信ス

現任村長檢垣榮三郎ハ明治二十二年六月家督相續ヲ爲シ其七月地所ヲ讓受タルコト並ニ同年六月ヨリ翌年三月迄ニ係ル町村費ハ廿二年十一月中ニ納付シタルコトハ双方異議ナク裁決者ニモ認メラレタル事實ナリトス

依是見之檢垣榮三郎ハ廿二年七月以後町村費ヲ負擔スルノ資格義務ヲ有シ現ニ七月以後其負擔分任ヲ爲シタル者ナリ而シテ其特免ヲ得タル廿二年九月ニ於テハ未々實際之ヲ納メスト雖トモ法律ノ所謂負擔分任ト云フニ至リテハ毫モ差支ナキ所ナリ何トナレハ其十一月ニ納付シタリト云フハ之レ只々收税上ノ便宜ノ爲メ徵收ノ期日ヲ十一月ニ定メタリト云フニ過キサルモノニシテ納付ノ期日ハ負擔分任ノ有無ニ關係ナキ所ナリ元來一日負擔分任ノ資格アレハ隨テ一日負擔分任ノ義務アルベキモノナレハ檢垣榮三郎カ家督ヲ相續シ財產ヲ所有スレハ負擔分任ノ資格得ルト同時ニ負擔分任ノ義務アルハ勿論ナレハ未々納期ニ至ラサル内ニ分任セサル者ナリト云フ

ハ法律ノ精神ヲ誤マルモノト云ハサル可カラス
左レハ楡垣榮三郎ハ廿二年七月以後負擔分任ヲ爲シニケ年ト云ヘル制限ニ觸ル、處アルモ同人
ハ村内ノ富豪家且衆望拔越ニシテ從來公共事務ニ從事シ村内ノ利益ヲ増進シタル功勞者ニ因リ
廿二年九月村會ノ決議ヲ以テ町村制第七條第一項ノ但書ヲ適用シ特免セシモノナレハ固ヨリ完
全公民タル資格ヲ具備セル者ナリ然ルニ原裁決書ハ楡垣榮三郎カ明治廿二年六月ニ於テ村費ヲ
納付セシコトヲ認メナカラ同年十一月マテ負擔分任セシコトナシトセシハ分任ノ意義ヲ納
付ト誤解セシモノナレハ其不當ナルハ辨ヲ俟タサル處ナリ
又原判決者ハ特免ヲ證スヘキ憑據ナシト云フモ現ニ其以來(明治廿二年九月ヨリ學務委員タリ)
名譽職ヲ奉シ來レル一事ニ因ルモ其原因タル特免ヲ推知スルニ足ルヘシ況ンヤ一二三號証等ノ
事實ノ見ルヘキモノアルニ於テヲヤ而ルニ原裁決書ハ議事録及ヒ決議書等ノ備ヘナク又村内ニ
公告シタルコトナシト云フモ此等有無ノ取調ヲモ爲サシテ漠然之レナシト云フハ實ニ不當ト
云ハサルヲ得サルナリ
將タ又々村長ノ撰舉有効無効ノコトタル郡參事會ニ於テ裁決シ得ルモノナルヤ否ヤ熟々町村制
ヲ按ズルニ公民權ノ有無ニ付テハ訴願モシ裁決ヲモ爲シ得ヘント雖トモ村長撰任ノ効力有無ニ
付裁定ヲ與ヘタルハソレ果シテ町村制何條ニ依リシモノナル乎是レ郡參事會カ越權ノ處置ト云
ハサルヘカラス右ノ次第ナルヲ以テ郡參事會印旆下埴生南相馬郡長武藤宗彬カ與ヘタル裁決書
ノ寫及嘗テ自分等ヨリ郡參事會ヘ提出セル書類ノ寫別紙相添ヘ訴願仕候間更ニ相當ノ御裁定ヲ
仰キ度尙詳細ハ御質問ニ應シ開陳可仕候也

明治二十三年八月一日

縣參事會千葉縣知事藤島正健殿

右
押尾保太郎

裁第十二號

裁決書

千葉縣下總國印旛郡彌宮村

助役

訴願人 押尾 保太郎

右訴願ハ本村押尾忠治外三十一名ヨリ本村長撰舉ノ効力ニ關シテ爲シタルハ訴願ニ對シ本郡長ノ裁決ヲ失當トシ之ヲ本官ニ提出ス訴願者申立ノ要領ハ本村會ニ於テ村長ニ撰舉セシ樽垣榮三郎ハ明治二十二年六月家督相續ヲ爲シ其七月土地ヲ讓受即チ同月以後本村負擔分任スルノ義務ヲ生シタル者ナレハ二ヶ年ト云ヘル制限ニ觸ル、所アルモ同年九月同人ヲ本村常設學務委員ニ撰舉ノ際本村會ノ議決ヲ以テ町村制第七條第一項但書ヲ適用シ其制限ヲ特免セシ者ナレハ固ヨリ完全公民タル資格ヲ具備セル者ナリ然ルニ本郡長ハ樽垣榮三郎カ同年六月ニ於テ家督ヲ相續セシコトヲ認メ且同年十一月ニ於テ村費ヲ納付セシコトヲ認メナカラ同年十一月マテ負擔ヲ分任セシコトナシト爲セシハ分任ノ意義ヲ納付ト誤解セシモノナリ又ハ特免ヲ証スベキ憑據ナシト云フモ同年九月ヨリ名譽職ヲ奉シ來レル一事ニ因ルモ其原因タル特免ヲ推知スルニ足ルヘシ況ンヤ一二三號証據ノ事實ノ見ルベキモノアルニ於テオヤ然ルニ本郡長ハ議事録及決議錄等ノ備ナク且村内ニ公告シタルコトナシト云フモ此等有無ノ取調ヲモ爲サシテ漠然之レナシト云フハ實ニ不當ナリ將々本郡長カ村長撰任ノ効力有無ニ付裁定ヲ與ヘタルハ其果シテ町村制第何條ニ依リシモノナル乎是郡長カ越權ノ處置ト云フニアリ

依テ之ヲ審按スルニ本訴願ノ主眼ハ本村長撰舉ノ効力如何ニアリ然ルニ町村長撰舉ノ効力ニ關

シテハ町村制中訴願ヲ許シタル條項ナキヲ以テ其撰舉ノ効力ニ關シ訴願スルモ受理スヘキ限リ
ニアラス但本訴願中公民權ノ有無ニ關シ云々スル所アルモ右ハ本訴ノ主眼タル本村長撰舉ノ効
力ニ關スル訴願ノ理由ニ過キサルヲ以テ公民權ノ有無ニ付テハ茲ニ説明ヲ與フルノ限ニアラス
右ノ理由ナルヲ以テ裁決スル左ノ如シ
本郡長カ村長撰舉ノ効力ニ關スル訴願ヲ受理シ裁決ヲ與ヘタルハ失當ナリトス

明治二十三年九月十六日

千葉縣知事 藤島 正健

印

原告千葉縣下總國印旛郡

彌富村平民農

- 押尾 忠治
- 大野 善三郎
- 南波佐間 久次郎
- 中村 與吉
- 中村 亥之助
- 林 菊治郎
- 廣瀬 惣兵衛
- 林 利兵衛
- 木村 善吉

- 杉山 勝治郎
- 大野 太平治
- 南波佐間 源之丞
- 林 和吉
- 林 房吉
- 南波佐間 和助
- 三本 林藏
- 岩井 伊之助
- 三本 久四郎
- 岩井 七兵衛
- 林 市松
- 粟生 重治郎
- 山本 徳藏
- 三須 岩右衛門
- 島田 太郎吉
- 錦 織利助
- 加納 辨治郎
- 島田 民治郎
- 鈴木 三右衛門

三須 清重郎
山本 五兵衛
三須 三之助
中村 又重郎

右三十二名代理

下總國千葉郡千葉町千四百四十八番地平民

代理人 新 庄 克 己

三十六年七ヶ月

違法ノ撰舉取消請求ノ訴

被告千葉縣下總國印旛郡彌富村

村 會

一本訴ハ被告彌富村々會カ公民權ナキ同村楢垣榮三郎ヲ常設學務委員及ヒ村長ニ撰舉セシハ違法ノ所爲ナルヲ以テ之ヲ取消更ニ撰舉ヲ行フイヲ請求スルモノトス故ニ千葉縣印旛下地生南相馬郡長武藤宗彬ハ此ノ原告ノ訴願ヲ容レ楢垣榮三郎ハ公民權ナキヲ以テ名譽職村長ニ撰舉スルイヲ得ズ其撰舉ハ無効ナル旨裁決セリ然ルニ彌富村會ハ之レニ服セス千葉縣知事藤島正健ニ宛訴願セシ處千葉縣知事ハ不當ニモ其對手ナル原告等ニ更ニ通告セス彌富村會ノ片言ヲ採リ原告等ノ訴願ヲ擯ケタルハ甚タ不法ナルニ付茲ニ出訴仕候
一町村ノ委員及ヒ名譽職村長ハ町村制第六十五條第二項同制第五十三條第一項ニ從ヒ其町村公民ニアラザレハ之ヲ撰舉スルヲ得ス楢垣榮三郎ハ明治二十二年六月楢垣家ヲ相續セシモ未タ

村費ノ負擔ヲ分任セス且ニケ年ヲ過キサルヲ以テ町村制第七條公民タルニ必要ナル條件ノ具備セサルモノトス然ルヲ彌富村會ハ其二ケ年ノ制限ハ村會ニ於テ之ヲ特免シ明治二十二年九月二十七日常設學務委員ニ明治廿二年一月十七日名譽職村長ニ撰舉セリト云フモ這ハ只毫モ據ル所ナキ遺辭ニシテ其村費ノ負擔ヲ分任セシメ二ケ年ノ制限ヲ特免セシメ等ニ付其當時之ヲ証スベキモノナキハ郡長裁決書ノ說明中ニ明カナリトス此公民權ナキ楢垣榮三郎ヲ常設學務委員ニ及ヒ名譽職村長ニ撰舉セシハ町村制第六十五條第二項同制五十三條第一項ニ背キタル不當ノ所爲ナルヲ以テ之レカ取消ヲ請求スルハ素ヨリ相當ナリト信ス然ルヲ千葉縣知事ハ郡長ニ對スル彌富村會ノ訴願ニ付テハ其對手ナル原告等ニ更ニ告知セス一方ノ片言ヲ採リ町村制中村長撰舉ノ効力ニ關シ訴願ヲ免スノ條項ナキヲ以テ郡長ニ於テ其訴願ヲ受理シ裁決スヘキモノニアラスト裁決セリ此裁決ニ依ルトキハ町村制中村長撰舉ノ効力ニ關シ訴願ヲ免ズノ明文ナキ限リハ町村制第六十五條同制第五十三條ニ背キ公民權ナキ者ヲ撰舉スルモ毫モ妨ケナシトスルノ意ナルカ不當モ亦甚シキモノトス
一彌富村會カ千葉縣知事ニ差出シタル訴願書中(第一二三號証)云々記載アリ此証據トスルモノハ何ナルカ前ニモ記スル如ク此訴願ニ付テハ原告等更ニ通知ナキ故之ヲ知ルニ由ナキヲ以テ茲ニ辨駁不仕候

以上ノ理由ナルヲ以テ被告彌富村會カ其公民權ナキ楢垣榮三郎ヲ常設學務委員及ヒ村長ニ撰舉セシハ町村制第六十五條第三項同制第五十三條第一項ニ背キタル不當ノ撰舉ナリト信シ謹テ出訴仕候因テ御審理之上撰舉ヲ取消ヘキ旨御裁判被下度此段奉願候

明治二十三年十月九日

行政裁判所長 榎村正直殿

右

新庄克巳印

十八

千葉縣下總國印旛郡彌富村々會議長

被告

榎垣榮三郎

右代言人

岡山兼吉

違法ノ撰擧取消請求ノ訴答

右者原告千葉縣下總國印旛郡彌富村平民農押尾忠治外三十一名代理人新庄克巳ヨリ被告村會へ
係ル前記命題ノ訴求事件ニ付被告答辨之要旨左ニ開陳仕候

第一 豫審裁判ノ請求

一原告本案請求ノ趣意ハ被告彌富村々會カ其公民權ナキ榎垣榮三郎ヲ常設學務委員及ヒ村長ニ
撰擧セシハ町村制第六十五條第二項同制第五十三條第一項ニ背キタル不當撰擧ナルヲ以テ其
取消ヲ請求スルト云フニアレハ取モ直サス町村長及ヒ常設學務委員ノ撰擧ノ効力ヲ争フモノ
トス然ルニ町村長及常設學務委員撰擧ノ効力ニ關シテハ町村制中訴願ヲ許シタル條項ナク而
シテ其場合ノ如何ニ關セズ法律中特別ノ明許ナキ限リハ一切訴願ヲ許サ、ルハ市町村制其他
訴願法一般ノ規定ナレハ右等撰擧ノ効力ニ關シ訴願スルモ受理スヘキモノニアラス隨テ曩キ
ニ千葉縣知事カ以上ノ理由ヲ以テ本案ヲ棄却シタルハ寔トニ相當ナル處置ナリトス然ルニ原
告ハ右縣知事ノ判定ニ服セス尙ホ本案ヲ御廳ニ向テ提起シ來タレルモ御廳モ亦本案ノ如ク法
律ニ明許ナキ場合ヲ受理審判スルヲ得サルハ行政裁判法第壹條ニヨリ推理セハ明カナルヲ
以テ直ニ棄却ノ御申渡アラントヲ請願仕候

十九

一右ノ如ク本案ハ御屬ニ於テ受理審判スヘキモノニアラサルヲ以テ直チニ御棄却相成ルヘキガ故敢テ本案ノ事實ニ立チ入りテ辨難スルノ要ナキカ如キモ御參考ノ爲メ左ニ概陳スヘシ

第二 本案ノ事實

- 一 檜垣榮三郎ハ本村中最モ富家ニシテ且德望アル檜垣重右衛門ノ嫡男ニシテ明治廿二年六月廿日檜垣家ヲ相續シ同月ヨリ翌七月ニ掛ケ檜垣家一切ノ動産不動産ヲ承繼シタルモノニ有之候(乙第五號証參照)
- 一 檜垣榮三郎ハ富裕ナル檜垣家ヲ相續シ且ツ父ニモ劣ラサル德望家ニシテ村中有數ノ人物ナルカ故被告村會ハ同人ヲシテ村務ニ干カラシメンコトヲ欲シ昨廿二年九月廿七日ノ議會ニ於テ町村制第七條ニ設ケラレアルニケ年ノ制限ヲ特免シ同日直ニ常設學務委員ニ撰擧シタルモノニ有之候(乙第一號及第二號參照)
- 一 檜垣榮三郎ハ爾來村内異議ナク學務委員ノ職ヲ奉シ居リタル處尙ホ本年一月前任村長岩井勝次郎不都合ノ廉有之辭職スルニ付キ其後任トシテ同人ヲ本村ノ村長ニ撰擧シタルモノニ有之候(乙第二號証參照)
- 一 檜垣榮三郎ハ昨廿二年六月檜垣家相續ト同時ニ本村々費負擔分任ノ資格ヲ帶ヒタルモノニシテ實ニ同年同月以後ノ村費ハ同人ノ負擔納付ニ係ルモノニ有之候(乙第六號証參照)
- 一 前項ノ如ク檜垣榮三郎ハ昨廿二年六月以後本村支消ノ村費ヲ負擔シ手カラ納付シアルニハ相違ナキモ其納付ノ時カ昨年十一月ナリシヲ奇貨トシ原告ハ種々論難スル處アルモ斯ク納付期節ノ後レタルハ左ノ理由ニ依ルモノニ有之候
- 一 昨廿二年度 從廿二年五月廿日 村費ハ恰カモ町村制實施ニ際シ諸事混雜致シ居リタルヲ以テ同至廿三年三月卅日

年度村費豫算案ノ如キモ同年十月七日ヨリ九日迄ノ村會ニ於テ議決シ同年十一月ニ至リテ漸ク本徵收ヲナシタルニヨリ同年度ノ豫算ニテ檜垣家カ負擔スヘキモノトナリタル村費拾三圓四拾八錢七厘ノ内曩キニ昨年六月中先代重右衛門ヨリ仮リニ徵收シ置キタル六圓五錢九厘ヲ差引キ残り七圓四十二錢八厘ハ榮三郎ノ手ヨリ上納シタルモノニテ假令其實物ヲ納付シタルハ十一月ニモセヨ其實廿二年度(從廿二年五月廿日)分全体ヲ買連シタルモノヲ納付シタル義ニ有之候

- 一 昨年十一月中檜垣榮三郎ヨリ納付シタル七圓四拾二錢八厘ノ村稅ハ廿二年度村費全体ニ涉タルモノニシテ敢テ分割スヘキモノニアラス又到底分割スルヲ得ヘカラスト被存候
- 一 檜垣榮三郎ハ未タ戸主トナラサル以前即明治十四年以來既ニ多少ノ地所ヲ所有シ村費義務負擔ノ資格ヲ有シ居リタルモノニ有之候(乙第七號証參照)
- 一 本案ハ原告共ノ眞意ヨリ出ルモノニハ無之數年來其職ニアリシ前村長カ一朝其地位ヲ失ヒタルヲ怨ミ原告共ヲ激唆シテ本案ヲ提起シ自己ノ位地ヲ回復セント企ツルモノニ過キス故ニ本案特免事實ヲ記載セラレアル昨廿二年九月廿七日ノ村會議事錄ハ殊更ニ之レヲ現任村長ニ引繼カス豫メ本案提起ノ地ヲ作シ置キタルモノニ有之候

第三 撰擧ノ正當ナル理由

- 一 本案ニ於テ原告カ檜垣榮三郎ノ撰擧ヲ不當ナリト主張スル理由左ノ如シ
- 一 檜垣榮三郎ニ對シ村會カ與ヘタル二個年ノ特免ハ當時ノ議事錄ノ提供ナキヲ以テ其事實確實ナラストノコト
- 一 檜垣榮三郎ハ右特免ヲ與ヘラレタル當時未タ本村々稅ノ負擔ヲ分任セストノコト

依テ被告ニ於テモ主トシテ右ノ二点ニ對シ解散可仕候

一被告村會カ町村制第七條第一項但書ノ規定ニヨリ昨廿二年九月廿七日檜垣榮三郎ニ對シ同條ニ所謂二個年ノ制限ヲ特免シ之レト同時ニ同制第六十五條ニヨリ同人ヲ常設學務委員ニ選舉シタルハ瞭然掩フヘカラサル事實ニシテ全村ノ人民モ亦些ノ異議ナカリシナリ若シ夫レ原告主張ノ如ク被告村會カ二個年ノ制限ヲ特免セス只徒ラニ常設學務委員ニ選舉シタリトセンカ全國一般選舉ノコトニ注目セシ昨年ノ如キ場合ニ於テ本村ノ民一體カ之レヲ默認シ居ルヘキ理由ナシ本年一月村長選舉ノ場合ニ至ル迄檜垣榮三郎ノ常設學務委員ノ資格ニ就テハ少シモ異論ヲ唱ヘサリシヲ以テ之ヲ見ルモ右二個年特免事實ノ慥カナルヲ証スヘシ然ルニ原告ハ其當時ノ議事録ノ役場ニ存在セサルヲ奇貨トシ右特免議決ノ不慥カナルヲ鳴スモ抑モ昨二十二年九月廿七日ニアリテ本案ノ制限ヲ特免シタリヤ否ヤハ暫ラク措キ免ニ角村會ノ開議アリタル事實ハ原告モ亦異論ヲ唱ヘサル處ナリ既ニ村會ノ開議アリトスレハ其節ノ議事録ノ存在シ居ラサルヘカラサルハ勿論ノコトナリトス故ニ之レヲ一見スレハ原告主張ノ眞偽直ニ明瞭スヘシ然ルニ此有要ナル證據物ヲ本案ニ提供スルコトヲ得サルハ畢竟原告本訴ノ教唆者タル前村長岩井勝次郎ハ特更ニ此議事録ヲ現時ノ村長ニ引續カス村務引續ノ際業ニ已ニ本案提起ノ實ヲ作リタルヨリ生シタルノ結果ナリ是ノ故ニ右議事録ノ不存在否其隱匿ハ寧ロ本案特免事實ノ正確ナルヲ知ルニ足ル者トス何トナレハ若シモ右議事録ニ於テ本案特免事實ノ記載ナクンハ原告否原告教唆者ナル前村長ハ喜ンテ之レヲ提供スヘシ然ルニ殊更ニ之レヲ隱匿シテ引續カサルヲ以テ見レハ該議事録中本案特免事實ノ明記シアルヲ以テナラン特免事實ノ存在確トシテ動カヌヘカラス況ンヤ被告村會ハ本年四月ノ開議ニ於テ滿場一致ノ同意ヲ以テ右特免事

實ヲ確認シタルニ於テオヤ

一檜垣榮三郎ハ昨廿二年六月ニ檜垣家ヲ相續シ同七月ニ總ヘテノ財産ヲ讓受ケ同年十一月中同年五月廿日ヨリ翌年三月迄ニ係ル村費ヲ納付シタルヲハ原告被双方異議ナク動カヌヘカラサル事實トス果シテ然ラハ同人ハ廿二年七月以後ノ村費ヲ負擔シ現ニ其責任ヲ盡シタルモノナリ然ルニ原告ハ其納付ノ十一月ナリシニ口實ヲ假ケ其特免ヲ與ヘラレタル九月ニアリテハ未タ村費ヲ負擔分任シ居ラザリシモノナリト主張スルト雖モ是レ納付ト負擔分任トヲ混合セシ不當ノ見解ナリトス今夫或ル事業ノ費用ヲ負擔分任シタルモノアリトセンニ其支拂ハ其事前ニアルモ事後ニ在ルモ其費用ヲ負擔分任シタリト稱スルニ於テ毫モ差異アルヘキ筈ナシ然ルニ若シ原告ノ解釋ノ如クスレハ其事後ノ支出ハ其事業ノ費用ヲ負擔分任シタルモノト稱スヘカラサルカ如シ天下豈斯クノ如キ理アラシヤ抑町村稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ徵收セラルヘキモノナルハ町村制第百條ノ規定スル處ナレハ檜垣榮三郎ノ如キモ廿二年六月ニ相續ヲナシテ納稅義務起リタルヲ以テ其翌七月ヨリハ當然村稅ヲ負擔スヘキ分任アルモノナリ既ニ村稅ヲ負擔スヘキ責任ヲ生シタル以上ハ時々日々役場ニ消費セラル、村費ニ向テハ負債ヲ主タルノ關係ヲ生シツ、アルモノニシテ十一月ニ至リテ村稅ヲ納付シタルハ只右ノ負債ヲ支拂ヒタルニ過キサルノミ特トニ同人ハ昨廿二年六月ノ相續前ヨリ既ニ多少ノ土地ヲ有シ村稅負擔ノ資格ヲ有シ居リタルヲ以テ之レヲ見ルモ昨年九月ニ於テ村稅ヲ負擔分任セシモノナルコトハ今更疑ヲ容ルヘキコトニアラス

前段陳述ノ次第ニシテ原告本案ノ請求ハ一モ正當ナル理由無之モノニ候間速ニ棄却ノ御申渡被成下度此段及答辨候也

明治廿三年十一月廿四日

右代言人

岡山 兼 吉

二十四

行政裁判所長官

男爵 榎村 正直 殿

明治二十三年第貳號

裁判宣告書

千葉縣印旛郡彌富村平民農

原告 押尾 忠 治

外三十一名

同 縣千葉郡千葉町千四百四拾八番地平民代言人

代人 新 庄 克 巳

同 縣印旛郡彌富村々會議長

被告 檜 垣 榮 三 郎

東京府東京市日本橋區西河岸拾七番地平民

代言人 岡 山 兼 吉

右原告押尾忠治外三拾壹名ヨリ被告彌富村々會ニ對スル違法ノ選舉取消請求ノ件遂審理處
 原告陳述ノ要旨ハ町村委員及名譽職村長ハ町村制第六拾五條第二項同制第五拾三條第一項ニ從
 ヒ其町村公民ニアラサレハ之ヲ選舉スルヲ得サル者ナルニ被告彌富村會ハ公民權ナキ同村檜垣
 榮三郎ヲ常設學務委員及村長ニ選舉セシハ違法ノ處分ニシテ榮三郎ハ明治二十二年六月檜垣家
 ヲ相續セシモ未タ村費ノ負擔ヲ分任セサルト相續後二ケ年ヲ過ギサルト以テ町村制第七條ノ
 公民タルニ必要ナル條件ヲ具備セサルモノナリ彌富村會ハ其二ケ年ノ制限ヲ村會ニ於テ特免シ
 タリト云フモ當時之ヲ證スヘキモノナキハ千葉縣印旛郡下植生南相馬郡長武藤宗彬ノ裁決書說明
 中ニ明カニシテ不當ノ選舉ナルニ依リ其ノ選舉ノ取消ヲ請求スト云フニ在リ

二十五

被告答辨ノ要旨ハ原告ニ於テ檜垣榮三郎ノ選舉ハ不當選舉ナルヲ以テ其取消ヲ請求スト云フハ取直サズ町村長及常設學務委員選舉ノ効力ヲ争フモノニシテ其選舉ノ効力ニ關シテハ町村制中訴願ヲ許シタル條項ナク隨テ出訴スルヲ得サレハ本件ハ棄却相成ヘキモノナルヲ以テ其實事ニ立入り辨難スルノ必要ナキガ如シト雖トモ參考ノ爲メニ之ヲ概陳センニ檜垣榮三郎ハ明治二十二年六月二十日檜垣家相續以後檜垣家一切ノ動不動產ヲ承繼シタルモノニシテ被告村會ハ二十二年九月廿七日ノ議決ニ於テ町村制第七條ヲ設ケタルニ原告ハ前村長カ昨年九月廿七日ノ村會議事録ヲ引繼カサルヲ奇貨トシニケ年ノ特免ヲ與ヘタルモノニ非スト主張スルモ本年一月村長選舉ノ場合ニ至ル迄同村人民ニ於テ榮三郎カ常設學務委員タル資格ニ就テ一モ異論ヲ唱ヘサリシヲ以テ事實ノ體カナルヲ証スルヲ得ヘシ況ンヤ被告村會ガ本年四月ノ開議ニ於テ其特免シタル事實ヲ確認シタルヲ又檜垣榮三郎ハ昨二十二年六月檜垣家相續ノ同時ニ於テ本村々費負擔分任ノ資格ヲ帶ヒ同年四月以後ノ村費ハ全ク同人ノ負擔シタルニ拘ハラヌ原告ハ右村費納付ノ時期カ昨年十一月ナリシヲ以テ同年九月村會カ榮三郎ニ特免ヲ與ヘタリトスル當時ハ未タ其村費ノ負擔ヲ分任セスト論難スルモ明治二十二年度ノ豫算ハ同年十月村會ニ於テ議決シ同十一月ニ至リ檜垣家ノ負擔村費金額中拾三圓四拾八錢七厘内同年六月本人父先代重右衛門ヨリ假徵收ノ金額ヲ除キ殘金七圓四拾貳錢八厘ヲ榮三郎ヨリ納稅シタルハ原告被雙方ノ認ムル所ニシテ榮三郎ハ其納付前既ニ之ヲ分任シ居ルモノナリ殊ニ榮三郎ハ未タ戶主トナラサル以前ヨリ若干ノ地所ヲ所有シ村稅負擔ノ資格ヲ有シ居ルモノナレハ昨年九月ニ於テ既ニ村稅ヲ負擔分任セシモタルハ疑フヘキニ非スト云フニ在リ

依テ證據ヲ審閱シ雙方ノ辨論ヲ閱キ説明スル左ノ如シ
 被告ハ町村長及ヒ委員ノ選舉ニ付テハ町村制中訴願訴訟ヲ爲シ得ヘキ明文ナシト云フモ本訴ノ起因ハ檜垣榮三郎カ公民タル權利ノ有無ニ關スルヲ以テ同制第三十七條ニ依リ訴願訴訟ヲ爲シ得ヘキモノトス而シテ原告ノ申立ツル所ハ檜垣榮三郎ハ常設學務委員選舉ノ當時公民タルノ要素ヲ欠クノミナラス町村制第七條ニケ年ノ制限ヲ特免シタルコトナシト云フニ在トモ檜垣榮三郎ハ常設學務委員當選前明治二十二年六月ニ於テ前戶主ノ動不動產全額ヲ相續シ且原告カ村會ニ於テ檜垣榮三郎ヲ村長ニ選舉シタルヲ不當トシ本年四月訴願ヲナシタル際村會カ明治二十二年九月廿七日日本村當置委員選舉會ニ際シ前ノ議長村會ノ決議ヲ得テ特免シ以テ本村學務委員トナシタルハ確然タル公民ニシテ彌富人民カ一般ニ了知シ居ルハ論ヲ俟タサルモノナリトノ裁決ヲナシタルニ據レハ彌富村會ニ於テ議決ヲ以テニケ年ノ制限ヲ特免シタルモノト認定セサルヲ得ス故ニ檜垣榮三郎ハ公民權ナキ者ト謂フヲ得サルモノトス
 右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ
 原告ノ請求相立タス
 訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

明治二十三年十二月廿六日行政裁判所公庭ニ於テ宣告ス

行政裁判所評定官 南部 龜 男

印

行政裁判所評定官 渡邊千秋 印

行政裁判所評定官 馬屋原彰 印

行政裁判所評定官 山脇玄 印

行政裁判所評定官 廣瀬進一 印

行政裁判所評定官 斯波有造 印

行政裁判所評定官 樋山資之 印

行政裁判所書記 朝倉益穂 印

行政裁判

所之印

明治二十三年十二月廿六日行政裁判所ニ於テ原本ニ依リ謄寫ス

行政裁判所書記 木梨金一 印

明治二十四年十月二十一日印刷
明治二十四年十月三十一日出版

著 者

千葉縣平民

押 尾 保 太 郎

千葉縣下總國印旛郡彌富村
岩富千三百五十一番地

千葉縣平民

石 渡 岩 吉

千葉縣下總國印旛郡彌富村
岩富町四百四十五番地

發 行 者 兼 印 刷 者

